

激動する現代社会における商学のパイオニアを目指す

商学研究科は、伝統ある明治大学商学部の教育を基礎として、一層の高度な知識と幅広い教養を身に付け、広く世界を見渡し、人類の進歩に貢献することの出来る人材を育成するための教育・研究機関です。

商学研究科は、商学部の7コースを専門分野別に細分化した、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の8つの特色ある系列で構成されており、約50名の教育・研究スタッフによる大学院生の研究指導が行われています。

現在、日本の社会と大学教育は、大きな岐路に立ち、大学院の持つ意義はますます高まっています。商

学研究科は、開かれた大学院であり、海外からの留学生の受け入れ、また協定校留学制度による国際交流や、社会人の受け入れにも積極的に対応しており、本学商学研究科を巣立った多くの研究者が国内外の研究・教育機関で活躍しています。

商学研究科では、入学を希望する学内外の志願者に対する一般入学試験の他、留学生や卒業生、シニアに対する特別な入学試験を実施しています。また本学学部在籍者には、学内選考や3年早期卒業予定者入学試験にて商学研究科への進学機会を設けています。

専攻

商学専攻においては、専攻を経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通、貿易の8つの系列に大別し、それぞれの領域において優れた研究実績を有する教員を配置の上、研究指導にあたります。



商学研究科の人材養成 その他教育研究上の目的

商学研究科は、我が国における「商学のパイオニア」としての長き伝統を持つ商学部の教育を基礎に、商学の各分野における、より高度な専門的知識を教授することにより、将来第一線の研究者及び高度専門職業人の育成を図ることを目的とする。

博士前期課程では、幅広く高度な商学関連知識を教授することにより優れた問題解決能力及び研究能力の基礎を修得させ、自立して活動できる高度専門職業人と基礎的研究能力を習得した研究者の養成を目的とし、博士後期課程では、グローバルな視野に立脚し最先端の高度な専門的知識を教授することによって、革新的な知識の創造力を持った研究者の養成を目的とする。

商学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

商学専攻では、商学研究科の目的の下、「商(Commerce)」にかかわる現象及び活動を多面的・多角的に攻究する。専攻には、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の8つの系列を設置し、各系列では、少人数教育を基本とし、学問の進展を考慮して基礎から最先端までの知識と分析手法を効果的に修得できるようにすることを目的とする。

入学者受入方針

Admission Policy

【博士前期課程】

商学研究科博士前期課程は、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の8系列を設置し、少人数教育を通じて、これらの分野における、さらにはこれらの分野を基礎とする学際的研究領域における研究者又は高度専門職業人として自立的に活動できる革新性と創造性に富む人材の養成を目的としています。そこで次のような学生を求めています。

- (1) 商学分野における研究を遂行するのに必要な知識と能力を身につけることができ、かつそのための努力を惜しまない者。同時に社会にとって有用な研究を公正に行うことのできる価値観を有する者。
- (2) 商学に関する高度な専門知識を備えた職業人として職務を全うするのに十分な知識と能力を身につけることができ、かつそのための努力を惜しまない者。同時に自らの職務を通じて社会の発展に寄与する熱意を有する者。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、3年早期卒業予定者入学試験、シニア世代のための入学試験、明治大学商学部卒業生入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を次の通り求めます。

- (1) 商学分野における基礎的な知識
- (2) 研究遂行上の明確な問題意識と達成目標
- (3) 自立的な研究活動に必須の計画的行動力と課題解決力

【博士後期課程】

商学研究科博士後期課程は、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の8系列を設置し、少人数教育を通じて、これらの分野における、さらにはこれらの分野を基礎とする学際的研究領域における最新の研究動向とそれに関連するビジネスの実際に通じ、大学ならびに各種研究機関において第一線の専門研究者として世界的に活躍できる人材の養成を目的としています。そこで次のような学生を求めています。

商学分野における第一線の専門研究者として研究を遂行するのに十分な知識と能力を身につけることができ、かつそのための努力を惜しまない者。同時に社会にとって有用な研究を公正に行うことのできる価値観と、研究を通じて社会の発展に寄与する使命感を有する者。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を次の通り求めます。

- (1) 商学及び隣接分野の幅広い知識に裏づけられた専攻分野に関する専門知識
- (2) 論理的に卓越した研究を展開し得る問題解決能力及び課題探究能力
- (3) 研究成果を国内外に発信し得るコミュニケーション能力



商学研究科Webページ

明治大学大学院 商学研究科

検索

事務取扱時間 (グローバルフロント5F)

平日▶09:00~11:30/12:30~18:00 土曜日▶09:00~12:30 電話▶03-3296-4704 Mail▶shoken@mics.meiji.ac.jp

※休業期間やイベント等により事務取扱時間は変更となる場合があります。

カリキュラム一覧

■ 前期課程	■ 後期課程
1 経済系列	
経済理論特論・演習	経済理論特殊研究・演習
計量経済学特論・演習	計量経済学特殊研究・演習
財政学特論・演習	財政学特殊研究・演習
経済政策論特論・演習	経済政策論特殊研究・演習
産業組織論特論・演習	国際経済学特殊研究・演習
国際経済学特論・演習	中小企業論特殊研究・演習
中小企業論特論・演習	
経済学外国文献研究	
2 商業系列	
商業理論特論・演習	商業理論特殊研究・演習
商業経営論特論・演習	商業経営論特殊研究・演習
インダストリアルマーケティング論特論	商品学特殊研究・演習
商品学特論・演習	日本流通史特殊研究・演習
日本流通史特論・演習	市場調査論特殊研究・演習
流通システム論特論・演習	
市場調査論特論・演習	
商業学外国文献研究	
3 経営系列	
生産管理論特論・演習	生産管理論特殊研究・演習
経営情報システム論特論・演習	経営情報システム論特殊研究・演習
情報管理論特論・演習	情報管理論特殊研究・演習
経営哲学特論・演習	経営哲学特殊研究・演習
クリエイティブ・ビジネス論特論・演習	クリエイティブ・ビジネス論特殊研究・演習
経営戦略論特論	
経営学外国文献研究	
4 会計系列	
財務会計論特論・演習	原価計算論特殊研究・演習
原価計算論特論・演習	意思決定会計論特殊研究・演習
意思決定会計論特論・演習	業績管理会計論特殊研究
業績管理会計論特論	監査論特殊研究・演習
監査論特論・演習	国際会計論特殊研究・演習
経営分析論特論・演習	会計情報論特殊研究・演習
国際会計論特論・演習	租税法特殊研究・演習
会計情報論特論・演習	
租税法特論・演習	
企業評価論特論・演習	
会計学外国文献研究	

※ 2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

■ 前期課程	■ 後期課程
5 金融・証券系列	
金融理論特論・演習	金融機関論特殊研究・演習
金融機関論特論・演習	機関投資家論特殊研究・演習
コーポレートファイナンス特論	金融取引論特殊研究・演習
証券市場論特論・演習	
機関投資家論特論・演習	
金融取引論特論・演習	
金融・証券外国文献研究	
6 保険系列	
保険理論特論・演習	保険理論特殊研究・演習
損害保険論特論・演習	
保険リスクマネジメント論特論・演習	
保険論外国文献研究	
7 交通系列	
交通理論特論・演習	交通理論特殊研究・演習
都市・地域交通論特論	
国際交通論特論・演習	
交通論外国文献研究	
8 貿易系列	
貿易理論特論・演習	貿易理論特殊研究・演習
世界経済論特論・演習	世界経済論特殊研究・演習
貿易商務論特論・演習	貿易商務論特殊研究・演習
国際ビジネス・コミュニケーション論特論・演習	国際ビジネス・コミュニケーション論特殊研究・演習
国際ビジネス交渉論特論・演習	国際ビジネス交渉論特殊研究・演習
貿易論外国文献研究	
特別外国文献研究	
ドイツ語経済文献研究	
フランス語経済文献研究	
系列共通研究	
実践商学特論	実践商学研究
技術経営特講	
特別テーマ研究特論	

特別外国文献研究・系列共通研究について

専攻系列を問わず受講出来る科目群を用意しています。博士前期課程の特別外国文献研究では、諸外国の文献を読み解くことで国際的な視点を得ることが出来ます。系列共通研究科目群においては、外部から実務家などを招いて講義を行う科目もあり、系列にとらわれない学びが可能です。詳しい講義内容はシラバスを参照してください。

教育課程編成・実施方針 Curriculum Policy

【博士前期課程】

商学研究科博士前期課程は、商学分野における研究者ならびに高度専門職業人を養成するため、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の8系列を設置し、少人数教育を基本とする、特色のある教育・研究活動を行っています。各系列のカリキュラムは最新の研究動向とビジネスの現場における状況を考慮して、必要とされる科目をバランスよく配置し、基礎から最先端までの知識と分析手法を効果的に修得できるように配慮されている一方で、系列、さらには研究科を超えた科目履修も可能であり、幅広い関連知識に基礎づけられた精深な学識を教授し、卓越した研究能力を修得させる体制を整えています。

学生は、指導教員の指導の下、さまざまな講義に出席し定められた単位を修得することで必要な知識を身に付け、あわせて修士論文を作成するための研究指導を受けることを通じて、研究者又は高度専門職業人への第一歩を踏み出すことができます。

【博士後期課程】

商学研究科博士後期課程は、大学ならびに各種研究機関において商学分野の第一線の専門研究者として世界的に活躍できる人材を養成するため、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の8系列を設置し、少人数教育を基本とする、特色のある教育・研究活動を行っています。進歩めまぐるしい現代の商学研究を理解し、次世代の研究をリードするのに十分な知識と能力を備えた専門研究者を育成するために必要なカリキュラムが設置されており、また指導教員による論文の執筆と学会・研究会での研究報告という研究者に不可欠な活動に対するマンツーマンの指導が行われます。研究指導は、それぞれの研究分野において第一線の研究者として活躍を続けている教員スタッフが担当します。

学生は、こうした教育体制の下、指導教員を中心とする教員スタッフからの研究指導を受けることを通じて専門研究者としての知識と能力を身につけることができます。

学位授与方針 Diploma Policy

【博士前期課程】

商学研究科博士前期課程において修士学位を取得するためには、所定の期間以上在学し、所定の授業科目の単位(32単位)を平均「B」以上の成績評価で修得し、指導教員から研究指導を受ける必要があります。この修了要件を充たし、かつ、学業成績及び学位論文から、次に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し、修士(商学)の学位を授与します。

幅広く高度な商学関連知識に基づいた専攻分野における優れた問題解決能力及び研究遂行能力

【博士後期課程】

商学研究科博士後期課程において博士学位を取得するためには、所定の期間以上在学し、指導教員から研究指導を受ける必要があります。また、本研究科の定める修了要件を充たし、博士学位を請求するにふさわしいと認められる研究業績及び学位論文から、次に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し、博士(商学)の学位を授与します。

最先端の高度な商学関連知識を修得し、専攻分野における自立した研究者として国内外で研究活動を展開し得る、革新的で論理的な知識の創造力

院生からのメッセージ

博士前期課程

Master's Program



生 舒暢

SHENG Shuchang

商学専攻
博士前期課程2年

若手社会人は「専門知識の深化」を実現できる研究環境

日本の大学を卒業して、IT関連の仕事に就き、企業間取引のプロジェクトをメインに担当していましたが、仕事をすすめるなかで、さらに先端消費者の行動や心理を深く知りたいと考え、3年の社会人経験を積んでから大学院に入学することを決めました。そのため、入試準備から仕事と勉強の両立が必要でした。もちろん、大変な面はありましたが、新たにチャレンジしたことは、自分の成長につながったと実感しています。現在は、福田康典教授に師事して、「カスタマーエンゲージメント」に関する研究を進めています。

私は同じ学問領域を学部時代に学びましたが、大学院の授業はインプットだけではなく、自分の関心がある課題を見つけて自主的に研究します。社会人学生にとっては、研究活動を通じて深めた知見を職場でアウトプットするこ

とが大事です。なお、授業以外でも優秀な他の院生と意見を交わすことは楽しく、いつも多角的な視点からインスパイアされる機会があります。また、明治大学では、豊かな就職支援制度があり、将来のキャリアアップも期待できると思います。

Q 師事している教員は？

A 福田 康典 教授

福田研究室は、マーケティング分野の価値共創に研究焦点を当て、市場調査を専門としています。定量分析に必要なマーケティングリサーチ手法を学び、論文作成にあたって貴重な知識を身につけます。また、授業中皆さんが積極的に発言し、意見交換するため、思考力も非常に鍛えられます。

教員情報 P.034

博士後期課程

Doctoral Program



蒙 萌

MENG Meng

商学専攻
博士後期課程 3年

新しい自分と出会う恵まれる研究環境

私は学部時代に商学部にも所属し、研究の道に進むため、大学院への進学を決めました。前期課程で、国際ビジネス交渉における文化の影響に関する研究を進めるなか、将来、大学の教員を目指していることを教授に相談したところ、厳しい道ではあるが、その気持ちがあるならと後押しいただき、その結果、後期課程で、国際ビジネス交渉をさらに深く研究することになりました。

現在、山本雄一郎教授の指導のもと、国際ビジネス交渉において中国人ビジネスパーソンはどのようなコミュニケーションをするのかというテーマについて研究を行っています。関連文献の講読や知識の体系的な整理など、毎日研究に没頭していて充実した生活をおくっています。ゼミでは、この分野の専門知識や論文のみならず論文執筆におけ

る書き方や言葉も学びます。教授からは、常に多様な視点の意見や研究におけるサポートを頂き、非常に恵まれた環境にいると感じています。

なお、大学には様々な助成制度もあり、自分のやりたい研究を進めるところとしては最適だと思います。

Q 師事している教員は？

A 山本 雄一郎 教授

後期課程の研究は専門性と独自性が求められ、それを進めるためには貿易、ビジネス交渉、言語能力など、様々な知識が必要となります。山本雄一郎教授はいつも細かく指導して下さり、研究のノウハウや知識だけでなく、研究者に必要な姿勢も教えていただいています。学習意欲が高められる研究室だと実感しています。


教員情報 P.037

2023年度 修士論文テーマ

- ▶ 英国における鉄道政策の史的展開と再国営化
—グレート・ブリティッシュ鉄道構想の視点から—
- ▶ 訪問介護員と介護職員の離職意向に関する実証分析
- ▶ 小売業のスマート化
—メタバースリテリングに対する消費者の受容問題—
- ▶ e-ロコミにおけるプラットフォームの比較研究
- ▶ 日韓の繊維・ファッション産業集積の歴史的動向と発展
—大阪船場とソウル東大門市場を中心に—
- ▶ ライブコマースにおける配信者とのパラソーシャル・インタラクションが消費者の衝動購買意欲に及ぼす影響
- ▶ スポーツツーリストの土産品購買に関する研究
—贈与対象とチーム関連性の違いに焦点を置いて—
- ▶ 医薬品製造とサプライチェーンの進化
- ▶ 日本のコーポレート・ガバナンス改革
—1990年代から2010年代までの事例を中心に—
- ▶ わが国における中小会計と中小M&Aについての考察
—企業会計基準やIFRS for SMEs、大企業のM&Aとの比較—
- ▶ 日本株式ESGファンドのパフォーマンスに関する実証研究
—Crisis(危機)とNon-Crisis(平時)に着目して—
An Empirical Study of Japanese Equity ESG Investment Funds' Performance
— Focused on the Crisis and Non Crisis Periods —
- ▶ 中国・日本における流動性ショック対策としてのコミットメントラインの効果に関する実証分析 —コロナショックを例として—
- ▶ リスク資産における個人投資家のリスク回避度の逆転現象
—行動ファイナンスに基づく理論的解釈—
- ▶ グリーニアムの有無と決定構造に関する検証
—日本企業によるグリーンボンドを対象として—
- ▶ 日本におけるD&O保険(役員および取締役賠償責任保険)の需要に関する実証分析
—国情・時勢的背景をもとにした先行研究との比較—
An empirical analysis on the demand for D&O insurance (Directors' and Officers' liability Insurance) in Japan
—Comparison with previous researches based on national circumstances and current trends—
- ▶ 市民社会の形成を基盤とした「地域再エネ事業」の現状と課題
—持続可能で公正な社会の実現に向けて—
- ▶ ASEANの経済社会におけるデジタル化の課題と克服
- ▶ 欧州の温室効果ガス排出量取引制度の東アジアに対する啓発
- ▶ フェアトレードビジネスモデルの貧困削減効果を制限する要因分析
—カカオ生産国コートジボワールとガーナの事例を踏まえて—
- ▶ グローバル人材育成の課題と施策
—日中比較を中心として—
- ▶ 日本の国際交流の現状と異文化コミュニケーション

修了生からのメッセージ

博士前期課程
Master's Program



謝 ブンヨ
XIE Wenyu
商学専攻
博士前期課程
2023年3月修了

自分の可能性を広げる場所

学部時代では、商学に関する幅広い知識を習得してきましたが、より深い専門知識を得るために、大学院への進学を決めました。大学院では、菊池一夫教授指導の下で、オムニチャンネルにおける顧客体験について研究をしていました。大学院での2年間を振り返ると、確かな成長を実感しています。学部では、受身になっている時が多く、知識を吸収することに重点を置いていました。しかし、大学院では、自分自身で研究の方向性を決定する能力が求められ、学びのアプローチが変わりました。研究活動では、大量の文献を読むことによって、問題意識を鋭くし、課題解決力を高める機会となりました。教授からの指導や研究室の仲間との議論を通じ、異なる視点からの情報を取り入れることで、より深い洞察と新たなアイデアが生まれました。また、学

会に参加し、今までの成果を発表することは、自分の研究に自信を持ち、モチベーションの向上にもつながりました。これらの経験は、自分の可能性を広げて、現在のキャリアにおける大きなアドバンテージとなったと感じています。


Q 師事していた教員は？

A 菊池 一夫 教授

菊池教授は学問に厳格で、学生に対しても責任を持って接する先生です。週に1回文献を読み、要約し、セミナーで報告します。1年次の秋学期には自分の研究内容を明確にし、学期末には学会発表を行い、2年次は論文執筆に集中します。また、それ以外にも、菊池研究室では企業訪問等の学外活動も行われています。

教員情報 P.033

博士後期課程
Doctoral Program



蘇 嘯宇
SU Xiaoyu
商学専攻
博士後期課程
2023年3月修了

研究に必要なものが揃っている場所

博士前期課程より千田亮吉教授に師事しており、前期課程の最後に、研究内容をさらに深化したいと考え、後期課程への進学を決めました。

躊躇なく明治大学を選んだ理由は、求めるもの(「思考に集中できる落ち着いた環境」、「調査の対象となる各種の文献と資料」、そして「指導教員からの適切なアドバイス」)が全部揃っているからです。

個人研究室といい、図書館といい、喧騒から離れて「集中できる」環境が沢山存在し、ゆっくりと資料を閲覧したり、思惟を整理したりすることができます。研究の要とも言える資料の入手しやすさについても申し分ありません。豊富な蔵書を持つ図書館だけでなく、CiNiiをはじめとする一連のデータベースとの連携などによって、日本国内のみならず、世界中の研究データが容易く入手できます。そして、研究に行き詰まり、自力ではなかなか解決できずにいる際は、指導教員は非常に親切に指導して下さいます。

Q 師事していた教員は？

A 千田 亮吉 教授

主にマクロ経済の研究をしている研究室です。学生各自の研究テーマに合わせて、必要な知識を教授から教えていただきます。とても優しい先生で、学生の研究をいつも全力でサポートして下さるので、私も無事に博士学位を取得することができました。

教員情報 P.033

近年の博士学位授与

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(商学)	非定常時系列データとVARモデルによる金融政策の有効性の分析	2019年度
博士(商学)	企業の流動性資産保有に関する実証分析	2019年度
博士(商学)	オムニチャンネル小売業の流通プロセスにおけるロジスティクス統合	2019年度
博士(商学)	マーケティングにおけるエンゲージメントの理論と実証	2019年度
博士(商学)	機関投資家のエンゲージメントに関する研究 —エージェンシー理論からステュワードシップ理論へ—	2019年度
博士(商学)	中国における経済発展と農業問題に関する研究	2020年度
博士(商学)	ファインケミカル企業における研究開発成果分析モデルの研究	2020年度
博士(商学)	リスクマネジメント意思決定への多様なリスク感性の活用にもつて —理論仮説の構築—	2020年度
博士(商学)	人工知能システムの開発と利用に関わる組織の社会責任:ICTプロフェッショナルリズムを中心に	2021年度
博士(商学)	中国の地域格差に関する実証分析	2022年度
博士(商学)	新収益認識基準の会計的意味に関する研究 —IFRS第15号によせて—	2023年度
博士(商学)	グローバル・バリューチェーンと発展途上国の産業高度化の諸問題に関する研究	2023年度
博士(商学)	建築業における熟練技能者の人的資源開発に関する研究	2023年度

論文博士

博士(商学)	情報コミュニケーションに焦点を当てたワークモチベーションの組織心理学的研究	2021年度
--------	---------------------------------------	--------

シニアのための入学試験

「実践知」の「創造」と「伝承」 — 貴方の歩んできた道を次世代に —

商学研究科では同一職種の勤務経験が25年以上、入学時点で60歳以上の者に出願資格を限定した、「シニア入試」を実施しています。

このシニア入試の目的は、長年の職業経験を新たな「実践知」の「創造」に結び付け、次世代に「伝承」しようとする、意欲あるシニア層の研究を支援する点にあります。

シニア入試により入学した院生の「声」



月岡 忠

TSUKIOKA Tadashi

商学専攻
博士前期課程 2年

「個」を磨き「前へ」進む挑戦者は自分自身

私は約40年以上、公立高校教員として高校の教育現場で子どもたちと一緒に勉強や部活動を共に過ごしてきた。生涯一教員人生は、日々充実していました。教壇を降りる日が近づく1年前辺りから、その後の人生をどう過ごすか考えていたところ、40年間、拙くも人に教えてきた身でしたが、反転して「教わりたい。自分のために勉強をしたい」と思う気持ちが高まり、大学院へ挑戦することを決意しました。

明治大学の使命にある「多様な「個」を磨き、自ら切り拓く「前へ」の精神を堅持し、社会のあらゆる場面で協力を進め、時代を変革していく」と出会いました。この一節は挑戦することに年齢などにとらわれず、もう一度「前へ」進む勇気が語られています。さらに明治大学大学院のシニア入試制度「60歳以上で同一の職種または業種に25年以上の勤

務経験を有する」という出願資格は、自分の歩んできた道を無駄にすることなく新たな挑戦権が与えられます。今、自分を振り返りながらも「新しい時代を見てみたい」、そのような気持ちで毎日を過ごしています。

Q 師事している教員は？

A 畑農 鋭矢 教授

財政学をご専門とする先生です。ゼミでは財政学、公共経済学に限定せず、広く社会問題について調査し、データに基づく分析を行っています。研究室では、外国人留学生や学部から進学された若い方々と一緒に、資料検索を通じて討論、プレゼンを行い、データ分析や資料作成を行っています。

教員情報 P.033



シニア入試の Web サイト

(入試の概要や院生の声を公開しています。)

http://www.meiji.ac.jp/dai_in/commerce/admission-senior.html

「学内選考」方式による入学試験

商学研究科では、本学4年次に在籍し、より一層研究を進めたいと希望する学生を対象として、「学内選考」方式による入学試験を実施しています。

学内選考入試により入学した院生の「声」



江口 侑花

EGUCHI Yuka

商学専攻
博士前期課程 2年

自分と向き合って興味を深める場所

学部時代は会計学を学び、将来はその分野に従事したいと考えていましたが、その漠然さから行き詰まることが増え、先の見えない将来へ不安を抱えるようになりました。そこで自分自身と向き合う時間を設け、興味、関心を明確にした結果、学びを深めて専門性を高めたいと考え、大学院への進学を決めました。

大学院の授業は少人数制で主に発表や議論等の形式で進められます。そのため学部時代よりも教授との距離が近く、疑問や意見が出ることで議論しあえる環境となっています。知識を受け身で学ぶことが多かったため、例えば、現存制度そのものの是非を問われた時は衝撃を受け、物事を批判的にみることの重要性を学びました。個人々の積極的な意見が要求されるため、当初は自身の不甲斐なさに落ち込む

こともありましたが、その中で考える力が鍛えられ、自己の成長に繋がるのだと感じます。様々な背景や考え方を持つ仲間と共に学び、意見を交換することは、とても刺激的で更なる学びの意欲が高まります。このようなのびのびと学べる環境はとても贅沢なものだと日々感じています。

Q 師事している教員は？

A 山本 昌弘 教授

国際会計をはじめ、中小企業問題、CSR企業評価等に精通されている山本教授のもとで学んでいます。所属学生の研究内容について考えることや、反対に自分の研究内容に対する意見をもらうことで多角的な視点を得られます。また、研究室内の交流を大切にしているのでメリハリのある良い雰囲気となっています。

教員情報 P.035



学内選考入試の Web サイト

(入試の概要や院生の声を公開しています。)

http://www.meiji.ac.jp/dai_in/commerce/admission-gakunai.html

教員一覧

1 経済系列

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

千田 亮吉 教授 研究分野 **マクロ経済の実証分析**
CHIDA Ryokichi



【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】経済理論特論・演習／経済理論特殊研究・演習 【研究テーマ】経済モデルによる政策評価 【主な著書・論文】『行動経済学の理論と実証』（共編著・勁草書房・2010年）／『企業行動の動学モデル』（共著・多賀出版・2006年）／「1990年代以降の財政政策の効果」（『社会経済研究』No.55・2007年）

水野 勝之 博士(商学)教授 研究分野 **計量経済学**
MIZUNO Katsushi



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】計量経済学特論・演習／計量経済学特殊研究・演習 【研究テーマ】経済変動モデルの実証的研究 【主な著書・論文】『新行動経済学読本—地域活性化への行動経済学の利用法—』（共著・2021年・明大出版会）／『基本経済学視点で読み解くアベノミクスの功罪』（2021年・中央経済社）／「需要曲線を描く—試行」（『経済教育』39号・2020年）／「コロナ時代の経済復興—専門家40人からの明日への緊急提案—」（共編著・2020年・創成社）／『林業の計量経済分析』（共著・2019年・五弦舎）

畑農 鋭矢 博士(経済学)教授 研究分野 **財政学・公共経済学／応用計量経済学**
HATANO Toshiya



【最終学歴】一橋大学大学院 【担当授業科目】財政学特論・演習／財政学特殊研究・演習 【研究テーマ】公的部門の経済活動と経済効果に関する実証研究 【主な著書・論文】『データ分析をマスターする12のレッスン 新版』（共著・有斐閣・2022年）／「財政の持続可能性とは何か?」（共著・財務省『フィナンシャルレビュー』近刊・2022年）／『財政学をつかむ[新版]』（共著・有斐閣・2015年）／『財政赤字と財政運営の経済分析』（有斐閣・2009年）

山田 知明 博士(経済学)教授 研究分野 **Inequality in Macroeconomics**
YAMADA Tomoaki



【最終学歴】一橋大学大学院 【担当授業科目】経済政策論特論・演習／経済政策論特殊研究・演習 【研究テーマ】Heterogeneity in Macroeconomics 【主な著書・論文】"Achieving Fiscal Balance in Japan (with S. Imrohorglu and S. Kitao)," *International Economic Review*, Vol.57, 117-154, 2016. / "Wage, Income and Consumption Inequality in Japan, 1981-2008: from Boom to Lost Decades (with J. Lise, N. Sudo, M. Suzuki and K. Yamada)," *Review of Economic Dynamics*, Vol. 17, 582-612, 2014.

海老名 剛 博士(工学)教授 研究分野 **産業組織論**
EBINA Takeshi



【最終学歴】東京工業大学大学院 【担当授業科目】産業組織論特論・演習 【研究テーマ】企業の製品差別化、合併、イノベーション戦略と競争政策 【主な著書・論文】Demand Uncertainty, Product Differentiation, and Entry Timing under Spatial Competition (joint with K. Nishide, N. Matsushima), *European Journal of Operational Research*, Vol.303(1), pp.286-297, 2022.

高浜 光信 教授 研究分野 **国際経済学／国際マクロ経済学・国際金融論**
TAKAHAMA Mitsunobu



【最終学歴】神戸大学大学院 【担当授業科目】国際経済学特論・演習／経済学外国文献研究／国際経済学特殊研究・演習 【研究テーマ】通貨統合、国際通貨の選択、国際通貨制度改革に関わる理論・実証分析 【主な著書・論文】『国際金融論のエッセンス』（共編著・文真堂・2021年）／「通貨圏の安定性に関する3国モデル：最適通貨圏(OCA)理論を援用して」『同志社商学』第70巻第6号、2019年／「ユーロ圏における最適通貨圏の内生性問題：展開と現状」『経済学論叢』第59巻第3・4号中央大学経済学研究会、2019年

熊澤 喜章 教授 研究分野 **中小企業の国際比較・歴史研究**
KUMAZAWA Yoshiaki



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】中小企業論特論・演習／中小企業論特殊研究・演習 【研究テーマ】日英における中小工業の存在形態の歴史研究 【主な著書・論文】『貴婦人ゴディヴァの伝説とコヴェントリ』『コヴェントリ小史』『明大商学論叢』第100巻第1号、第2号(2017-8年)／「世界の工場イギリスの中小企業」『中小企業と日本資本主義の発達』（横井勝彦編著『日英経済史』日本経済評論社・2006年）／「イギリス中小企業史研究の現状と課題」（道重一郎編著『イギリス社会の形成史』三嶺書房・2000年）

2 商業系列

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

竹村 正明 Ph.D教授 研究分野 **戦略論・研究方法論**
TAKEMURA Masaaki



【最終学歴】Poznań University of Economics and Business 【担当授業科目】商業理論特論・演習／商業理論特殊研究・演習 【研究テーマ】お金儲けをするのは、なぜ難しいのかについての理論的研究 【主な著書・論文】Parry, Mark E., Yang Xiaoming, and Masaaki Takemura, (2020), "Social Motives for Generating Word-of-Mouth: The Case of Japanese Consumers," *Journal of International Consumer Marketing*, Vol. 13, No. 3, pp. 9-24.

菊池 一夫 博士(商学)教授 研究分野 **小売業・卸売業のマーケティング**
KIKUCHI Kazuo



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】商業経営論特論・演習／商業経営論特殊研究・演習 【研究テーマ】小売マーケティングに関する研究／卸売業の協業化に関する研究／サービス・マーケティングに関する研究 【主な著書・論文】Chia-Lin Hsu, Mu-Chen Chen, Kazuo Kikuchi and Ippei Machida (2017), "Elucidating the determinants of purchase intention toward social shopping sites: A comparative study of Taiwan and Japan," *Telematics and Informatics*, 34(4), pp.326-338.

高橋 昭夫 博士(商学)教授 研究分野 **品質論・サービス論・ブランド論**
TAKAHASHI Akiyo



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】商品学特論・演習／商業学外国文献研究／商品学特殊研究・演習 【研究テーマ】インターナル・マーケティング 【主な著書・論文】『インターナル・マーケティングの理論と展開』（同友館・2014年）／『QOLとマーケティング』（編著・同友館・2008年）／『現代商品知覚論』（同友館・2001年）／"The Role of Sister Cities' Staff Exchanges in Developing Learning Cities," *IJERPH*, Vol.12, 2015, (Co-authored).

若林 幸男

WAKABAYASHI Yukio

商学博士
教授

研究分野 **生産から消費に至る
様々な商品流通の史的分析**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】日本流通史特論・演習 / 日本流通史特殊研究・演習 【研究テーマ】商品（一般消費財）の流通のみならず、産業財（資金や労働力）の流通史、また、情報の流通史について主に研究している。【主な著書・論文】『第1次大戦期三井物産における新卒定期入社制度の定着過程』（『経営史学』第33巻第4号） / 『三井物産人事政策史』（ミネルヴァ書房） / 『学歴と格差の経営史』（日本経済評論社）ほか

原 頼利

HARA Yoritoshi

Dr. rer. pol
教授

研究分野 **流通論、マーケティング論**



【最終学歴】ベルリン自由大学大学院 【担当授業科目】流通システム論特論・演習 【研究テーマ】流通における組織間関係に関する研究 【主な著書・論文】Hara, Y. & Choi, Y. (2023). Vertical and horizontal governance in multiple-channel systems. *Journal of Business Research*, 156. Choi, Y. & Hara, Y. (2018). The performance effect of inter-firm adaptation in channel relationships: The roles of relationship-specific resources and tailored activities. *Industrial Marketing Management*, 70, 46-57.

福田 康典

FUKUTA Yasunori

教授

研究分野 **マーケティング論、市場調査論**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】市場調査論特論・演習 / 市場調査論特殊研究・演習 【研究テーマ】市場における情報の生成と伝播 【主な著書・論文】"Personal Data Sensitivity in Japan: An Exploratory Study," *Orbit Journal*, 2017, (Co-authored) / 「価値共創における使用文脈データの企業間共有」『日本情報経営学会誌』（単著・2017年） / 「使用文脈に関するマーケティング・リサーチと倫理問題—企業による使用文脈データの利用と消費者の不快感との関連性に関する経験的研究」『日本経営診断学会論集』（単著・2016年）

3 経営系列

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

富野 貴弘

TOMINO Takahiro

博士(経済学)
教授

研究分野 **経営学、生産管理論**



【最終学歴】同志社大学大学院 【担当授業科目】生産管理論特論・演習 / 生産管理論特殊研究・演習 【研究テーマ】ものづくりと時間サイクルに関する研究、高付加価値型ものづくりに関する研究 【主な著書・論文】"Market flexible customizing system (MFCS) of Japanese vehicle manufacturers: An analysis of Toyota, Nissan and Mitsubishi" *International Journal of Production Economics* vol.118, No.2 (共著・2009年) / 『日産プロダクションウェイ』（共著・有斐閣・2011年） / 『生産システムの市場適応力』（同文館出版・2012年）

村田 潔

MURATA Kiyoshi

教授

研究分野 **組織情報倫理**



【最終学歴】筑波大学大学院 【担当授業科目】経営情報システム論特論・演習 / 経営情報システム論特殊研究・演習 【研究テーマ】組織情報倫理学 【主な著書・論文】Pelegrin-Borondo, J., Arias-Oliva, M., Murata, K. and Souto-Romero, M.(2020). Does Ethical Judgment Determine the Decision to Become a Cyborg? *Journal of Business Ethics*, 161(1), 5-17. / Lennerfors, T. T. and Murata, K. (eds.) (2023). *Ethics and Sustainability in Digital Cultures*. Routledge.

山下 洋史

YAMASHITA Hiroshi

博士(工学)
博士(商学)
教授

研究分野 **経営品質科学に関する学際的研究
組織と情報の活性化に関する研究**



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】情報管理論特論・演習 / 技術経営特講 / 情報管理論特殊研究・演習 【研究テーマ】経営品質科学に関する研究 【主な著書・論文】『経営情報のネットワーク戦略と情報管理』（共編著・同文館） / 『情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル』（東京経済情報出版） / 『グローバルSCM』（共編著・有斐閣） / 「人的資源管理と日本の組織」（同文館） / 「企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クオリティ」（共編著・同文館）

出見 世信之

DEMISE Nobuyuki

博士(商学)
教授

研究分野 **企業倫理・CSR・企業統治**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】経営哲学特論・演習 / 経営哲学特殊研究・演習 【研究テーマ】企業倫理・CSRおよび企業統治に関する国際比較研究 【主な著書・論文】『企業統治問題の経営学的研究』（文眞堂） / 『企業倫理入門』（同文館出版） / 『問いからはじめる現代企業』（共著・有斐閣） / 『経営のルネサンス』（文眞堂・共編著）

水野 誠

MIZUNO Makoto

博士(経済学)
教授

研究分野 **マーケティング・サイエンス、
エージェントベース・モデリング**



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】クリエイティブ・ビジネス論特論・演習 / クリエイティブ・ビジネス論特殊研究・演習 【研究テーマ】消費者行動のデータ解析およびシミュレーション 【主な著書・論文】『マーケティングは進化する（改訂第2版）』同文館出版，2022（単著） / 『プロ野球「熱狂」のメカニズム』東京大学出版会，2021（共編著） / 「受信者と発信者の異質性を考慮したインフルエンサー・マーケティングにおけるマーケティング戦略」*マーケティング・サイエンス*, 30(1), 9-32, 2022（共著） / "An Empirical Study of Scarcity Marketing Strategies," *Journal of the Academy of Marketing Science*, 1-24, 2022（共著）

西 剛広
NISHI Takahiro

博士(商学) 准教授

研究分野 **コーポレート・ガバナンス、経営戦略**

【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】経営戦略特論 【研究テーマ】コーポレート・ガバナンスが企業のイノベーションに与える影響 【主な著書・論文】"DIFFERENT BOARD STRUCTURES AND R&D: EVIDENCE FROM JAPANESE CORPORATION", CORPORATE BOARD: ROLE, DUTIES AND COMPOSITION, Vol.11, Issue 2, Virtus Interpress / "CORPORATE DIVERSIFICATION AND BOARD COMPOSITION IN JAPANESE ELECTRONICS CORPORATIONS", International Journal of Business & Management, The International Institute of Social and Economic Sciences, Vol.3, No.2

4 会計系列

※ 2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

姚 俊
JUN Yao

博士(経営学) 教授

研究分野 **財務会計とマネジメントのハイブリッド分野**

【最終学歴】神戸大学大学院博士課程修了 【担当授業科目】財務会計論特論・演習 【研究テーマ】無形資産のマネジメント、測定と報告; 社会的サステナビリティと企業会計 【主な著書・論文】『グローバル化社会におけるリスク会計の探求』、Trend and challenges of IC reporting-experience from Japan, Cultural Values, Institutional Arrangements, and Stakeholder Management Culture: A Cross-National Study, 『情報テクノロジーの革新と企業会計』

千葉 修身
CHIBA Osami

博士(商学) 教授

研究分野 **現代ドイツ会計制度の在り方**

【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】原価計算論特論・演習/ドイツ語経済文献研究/原価計算論特殊研究・演習 【研究テーマ】ドイツ「会計ガバナンス」の動向とEnforcement機能の分析 【主な著書・論文】『現代ドイツ原価計算制度論』(森山書店)/『DRSの射程』(『会計』第160巻第5号・2001年)/『現代ドイツ会計制度研究の視座—「会計ガバナンス」の指定—』(『会計』第168巻第3号・2005年)

前田 陽
MAEDA Akira

博士(商学) 教授

研究分野 **管理会計**

【最終学歴】一橋大学大学院 【担当授業科目】意思決定会計論特論・演習/意思決定会計論特殊研究・演習 【研究テーマ】資本予算及び中期経営計画の策定に係る研究/日本企業における原価管理の研究 【主な著書・論文】『仮説検証マネジメントに基づく出店—イトーヨーカ堂における事例を通じて—』『会計プロGRESS』第15号(単著・2014年)/『日本電気における原価低減と利益管理』『原価計算研究』第34巻 第1号(単著・2010年)

加藤 達彦
KATO Tatsuhiko

博士(商学) 教授

研究分野 **会計監査の有効性と公会計の有用性に関する研究**

【最終学歴】名古屋大学大学院 【担当授業科目】監査論特論・演習/フランス語経済文献研究/監査論特殊研究・演習 【研究テーマ】ゲーム理論・実験を用いた監査制度の設計 【主な著書・論文】『監査制度デザイン論』(森山書店・2005年)/『Audit Credibility and the Audit Fees: A Theory and an Experimental Investigation. Developments on Experimental Economics, Springer (2007)』

王 志
WANG Zhi

博士(商学) 教授

研究分野 **管理会計**

【最終学歴】博士後期課程修了 【担当授業科目】経営分析論特論 【研究テーマ】原価低減、収益向上(販売価格)、納期管理および中国企業の管理会計実務に関する研究 【主な著書・論文】『リードタイム短縮とプレミアム価格の関係に影響を与える要因の考察: Hänichen(1995)に基づく2社の事例分析』『管理会計学』32(1)(単著・2024)/『中国企業の管理システムにみられる市場競争メカニズムの浸透』(水野一郎編著『現代中国会計: 歴・制度・教育・管理からの究明』中央経済社, 単著・2024)

山本 昌弘
YAMAMOTO Masahiro

博士(商学) 教授

研究分野 **実証会計学**

【最終学歴】京都大学大学院 【担当授業科目】国際会計論特論・演習/国際会計論特殊研究・演習 【研究テーマ】財務データを活用した日本企業の会計政策に関する実証研究 【主な著書・論文】『国際会計・財務論』(文真堂・2020年)/『株とは何か』(講談社・2011年)/『実証会計学で考える企業価値と株価』(東洋経済新報社・2009年)

名越 洋子
NAKOSHI Yoko

博士(商学) 教授

研究分野 **会計基準研究と事例研究(日本、米国、IFRS)**

【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】会計情報論特論・演習/会計情報論特殊研究・演習 【研究テーマ】ファイナンスにおける負債・資本会計、連結・企業結合の会計、排出枠と排出量取引 【主な著書・論文】『負債と資本の会計学—新株予約権・複合金融商品・ストック・オプションの検討』(中央経済社・2018年)/『特別目的会社の連結をめぐる会計問題—不動産開発型を中心に—』(『明大商学論叢』・2015年)/『排出枠と排出量取引に関する会計』(『会計基準研究の原点』収録・中央経済社・2012年)

松原 有里
MATSUBARA Yuri

Dr. jur. 教授

研究分野 **租税法(含む国際租税法)研究**

【最終学歴】ミュンヘン大学大学院 【担当授業科目】租税法特論・演習/租税法特殊研究・演習 【研究テーマ】EU(ドイツ)租税法の研究を中心とした日本との比較法の見地から企業結合税制、租税訴訟制度の研究および租税手続法研究 【主な著書・論文】International Tax Aspects of the Tokumei Kumiai pp.76-84, (IBFD Asia-Pacific Tax Bulletin (10) 2004) / Die Behandlung der Verluste im Einkommensteuerrecht -eine rechtsvergleichende Untersuchung des deutschen und japanischen Steuerrechts- (DHut 2006)

奈良 沙織
NARA Saori

博士(経営学) 教授

研究分野 **企業価値評価**

【最終学歴】筑波大学大学院 【担当授業科目】企業評価論特論・演習 【研究テーマ】企業のディスクロージャーとアナリスト 【主な著書・論文】『企業評価論入門』(中央経済社・2019年)/『統合報告書の発行がアナリストに及ぼす影響』(『Disclosure & IR』・2020年)/『The Effect of Bank Loan Dependence on Management and Analyst Forecasts』(The Japanese Accounting Review, 2019, 共著)/『社外取締役比率と企業のディスクロージャー』(『証券アナリストジャーナル』・2021年)

5 金融・証券系列

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

小原 英隆
OHARA Hidetaka

教授

研究分野 **【NOT ファイナンス】
貨幣社会の哲学・抽象理論**

【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】金融理論特論・演習 【研究テーマ】【NOT ファイナンス】貨幣社会の極限的状況の抽象的分析 【主な著書・論文】『オールド・ニューケインジアンによる有効需要の原理のミクロ的基礎：独占的競争経済における「貨幣所得の外部性」による価格伸縮の一般乗数の導出』



土屋 陽一
TSUCHIYA Yoichi

Ph.D
教授

研究分野 **金融論、経済予測**

【最終学歴】ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院 【担当授業科目】金融理論特論・演習 【研究テーマ】経済学における情報と期待形成 【主な著書・論文】Assessing macroeconomic forecasts for Japan under an asymmetric loss function (2016), International Journal of Forecasting, 32, 233-242. / The value added of the Bank of Japan's range forecasts (2021), Journal of Forecasting, 40, 817-833.



伊藤 隆康
ITO Takayasu

博士(経済学)
博士(経営学)
教授

研究分野 **中央銀行と金融市場・
金融システムについての実証分析**

【最終学歴】筑波大学大学院 【担当授業科目】金融機関論特論・演習 / 金融機関論特殊研究・演習 【研究テーマ】中央銀行と金融市場、中央銀行の市場との対話、イスラム金融 【主な著書・論文】『長期金利と中央銀行』(日本評論社・2005年) / Fisher Hypothesis in Japan: Analysis of Long Term Interest Rates under Different Monetary Policy Regimes, *The World Economy*, Vol.32 (2009) / Global Financial Crisis and US Interest Rate Swap Spreads, *Applied Financial Economics*, Vol.20(2010)



朝岡 大輔
ASAOKA Daisuke

博士(学術)
准教授

研究分野 **コーポレートファイナンス/
コーポレートガバナンス**

【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】コーポレートファイナンス特論 【研究テーマ】コーポレートファイナンス、コーポレートガバナンス及び企業のアーキテクチャーの研究 【主な著書・論文】Asaoka, D. (2022) *Financial Management and Corporate Governance*. World Scientific. / 朝岡大輔他 (2022)『ゼミナール コーポレートファイナンス』(日本経済新聞出版) / 朝岡大輔 (2022)『企業のアーキテクチャー：コーポレートガバナンス改革のゆくえ』(東京大学出版会)



野田 顕彦
NODA Akihiko

博士(商学)
教授

研究分野 **計量ファイナンス、時系列解析、
国際金融論**

【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】証券市場論特論・演習 【研究テーマ】金融市場における価格形成機能の時変構造に関する研究 【主な著書・論文】Ito, Noda and Wada (2022) "An Alternative Estimation Method for Time-Varying Parameter Models," *Econometrics*, 10(2), 23. / Noda (2016) "A Test of the Adaptive Market Hypothesis using a Time-Varying AR Model in Japan," *Finance Research Letters*, 17, pp.66-71.



三和 裕美子
MIWA Yumiko

博士(商学)
教授

研究分野 **機関投資家と
コーポレートガバナンス**



【最終学歴】大阪市立大学大学院 【担当授業科目】機関投資家論特論・演習 / 機関投資家論特殊研究・演習 【研究テーマ】機関投資家とコーポレート・ガバナンス、機関投資家のESG(環境、社会、ガバナンス)投資、株主アクティビストの企業への影響に関する研究 【主な著書・論文】『機関投資家の発展とコーポレート・ガバナンス』(日本評論社) / *Corporate Governance in Japan* (共著・Springer) / 『東アジアとアセアン諸国のコーポレート・ガバナンス』(編著・税務経理協会) / 『激動の資本市場を駆け抜けた女たち』(共著・白桃書房)

萩原 統宏
HAGIWARA Motohiro

博士(経済学)
教授

研究分野 **企業財務論、証券市場論、
資産価格理論**



【最終学歴】大阪大学大学院 【担当授業科目】金融取引論特論・演習 / 金融取引論特殊研究・演習 【研究テーマ】企業財務、資本市場、および投資行動に関する分析 【主な著書・論文】格付けの研究—信用リスク分析の評価—(中央経済社) / Fact Findings on the Synergy Effect between Diversity Management and Japanese Corporate Profitability, *International Journal of the Japan Association for Management Systems* Vol12(1)

6 保険系列

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

中林 真理子
NAKABAYASHI Mariko

博士(商学)
教授

研究分野 **保険・リスクマネジメント**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】保険理論特論・演習 / 保険論外国文献研究 / 保険理論特殊研究・演習 【研究テーマ】保険・リスクマネジメント・企業倫理に関する包括的研究 【主な著書・論文】『リスクマネジメントと企業倫理—パーソナルハザードをめぐる—』(千倉書房・2003年) / Robert Cooper and Mariko Nakabayashi, "Serious Ethical Turmoil in the U.S. and Japanese Life Insurance Markets," *Journal of Financial Service Professionals*, vol. 64, issues 2, 2010, pp.64-76

藤井 陽一郎
FUJII Yoichiro

博士
(社会経済)
教授

研究分野 **意思決定分析の基礎と保険論への
応用**



【最終学歴】筑波大学大学院 【担当授業科目】損害保険論特論・演習 【研究テーマ】非期待効用理論を用いた保険市場の分析、あいまい性下における保険需要の考察 【主な著書・論文】Fujii, Y. and Inakura, N. (2019) Factors Widening the Gap between Hypothetical and Actual Choices -Empirical Evidence from the Japanese Medical Insurance Market-. *Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance*, Volume 13, Issue 2, 20180026, eISSN 2153-3792.

浅井 義裕
ASAI Yoshihiro

博士(経済学)
教授

研究分野 **中小企業金融における保険の役割**



【最終学歴】名古屋大学大学院 【担当授業科目】保険リスクマネジメント論特論・演習 / 保険論外国文献研究 【研究テーマ】中小企業金融と保険・リスクマネジメント / 金融教育 / 事業承継 【主な著書・論文】浅井義裕 (2021)『中小企業金融における保険の役割』中央経済社 / Asai, Yoshihiro (2019) "Why Do Small and Medium Enterprises Demand Property Liability Insurance?," *Journal of Banking and Finance* 106, pp.298-304.

7 交通系列

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

藤井 秀登
FUJII Hideto

博士(商学) 教授
研究分野 **交通理論の哲学的基礎と交通政策の規範**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】交通理論特論・演習／交通論外国文献研究／交通理論特殊研究・演習 【研究テーマ】持続可能な交通政策に関する研究 【主な著書・論文】『交通論の祖型—関一研究—』(八朔社)／『現代交通論の系譜と構造』(税務経理協会)／『現代の観光事業論』(税務経理協会)

恩田 睦
ONDA Mutsumi

博士(経済学) 准教授
研究分野 **近現代交通史、鉄道史、交通と地域振興に関する研究**



【最終学歴】立教大学大学院 【担当授業科目】都市・地域交通論特論 【研究テーマ】交通事業の社会経済史的研究 【主な著書・論文】『近代日本の地域発展と鉄道——秩父鉄道の経営史的研究』(日本経済評論社)／『高松市「まちなかループバス」にみる地域公共交通の展開——バス運営主体としての商店街組織の意義』『自治総研』第47巻5号／『くま川鉄道と沿線住民の協働による観光客誘致』『運輸と経済』第75巻12号／『戦間期秩父鉄道の貨物輸送にみる諸井恒平と地方株主：秩父地域を中心に』『渋沢研究』第31号

町田 一兵
MACHIDA Ippei

博士(商学) 教授
研究分野 **アジア・環太平洋国際交通及び交通・物流政策**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】国際交通論特論・演習 【研究テーマ】アジア・欧米諸国の交通インフラ整備、関連政策、各輸送モードの異なる展開、交通に関連する環境の課題 【主な著書・論文】『離島の観光地におけるローカル空港機能の特徴に関する一考察』『港湾経済研究』第57号、『規制緩和がローカル航空市場に与える影響に関する研究』明大商学論叢第100巻第3号、『中国国内の交通・インフラ整備政策の視点からみた「一带一路」』『運輸と経済』第78巻第12号

8 貿易系列

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

所 康弘
TOKORO Yasuhiro

博士(商学) 教授
研究分野 **国際貿易、グローバル・サウス論**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】貿易理論特論・演習／貿易理論特殊研究・演習 【研究テーマ】国際貿易とグローバル・サウス／持続可能な貿易(倫理的貿易) 【主な著書・論文】『北米地域統合と途上国経済』(西田書店・2009年)／『米州の貿易・開発と地域統合』(法律文化社・2017年)／『貿易入門』(共編著・大月書店・2017年)／『ラテンアメリカはどこへ行く』(共著・ミネルヴァ書房・2017年)／『日本の国際協力ラテンアメリカ編』(共編著・ミネルヴァ書房・2021年)

小林 尚朗
KOBAYASHI Naoki

教授
研究分野 **世界経済論、貿易政策論、アジア経済論**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】世界経済論特論・演習／世界経済論特殊研究・演習 【研究テーマ】グローバル・サウス下の開発と貿易、東アジア地域協力 【主な著書・論文】『フェアトレードビジネスモデルの新たな展開 第2版』(共著・明石書店・2023年)／『貿易入門 第2版』(共編著・大月書店・2023年)／『アジア経済論』(共編著・文真堂・2022年)／『地球経済入門』(共著・法律文化社・2021年)／『アジア共同体構想と地域協力の展開』(共著・文真堂・2018年)／『世界経済の解剖学』(共編著・法律文化社・2014年)

篠原 敏彦
SHINOHARA Toshiniko

教授
研究分野 **国際ビジネスに関わる経営戦略**



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】貿易商務論特論・演習／貿易商務論特殊研究・演習 【研究テーマ】日本企業の海外進出活動とそれに伴う諸問題 【主な著書・論文】『多国籍企業の子会社統制に関する実証分析』(明大商学論叢・1998年)／『多国籍企業の子会社活動の戦略的統合』(明大商学論叢・1999年)

塩澤 恵理
SHIOZAWA Eri

博士(学術) 教授
研究分野 **国際ビジネス・コミュニケーション論**



【最終学歴】国際基督教大学大学院 【担当授業科目】国際ビジネス・コミュニケーション論特論・演習／貿易論外国文献研究／国際ビジネス・コミュニケーション論特殊研究・演習 【研究テーマ】国際ビジネス・コミュニケーションの研究 【主な著書・論文】『ビジネスコミュニケーションとグローバル・サウス』(明大社研紀要第48巻1号・明治大学社会科学研究所・2009年)／『ビジネス・コミュニケーションと最適化分析』(勁草書房・2005年)／『Forms of Health Care Communication: An Integrated Approach Forma, Vol.31, pp.S17-S21, 2016』

山本 雄一郎
YAMAMOTO Yuichiro

教授
研究分野 **国際ビジネス交渉、国際ビジネスコミュニケーション**



【最終学歴】シカゴ大学大学院 【担当授業科目】国際ビジネス交渉論特論・演習／国際ビジネス交渉論特殊研究・演習 【研究テーマ】国際ビジネスコミュニケーション 【主な著書・論文】『国際ビジネスコミュニケーション』(分担執筆・丸善・2010年)／『東芝とウエスタンデジタル社の国際ビジネス交渉上の課題分析-ビジネスコミュニケーションの考察-』(国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報・2019年)／『国際ビジネス交渉における適応に関する一考察』(国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報・2012年)